

<再評価>

事業名 (箇所名)	総合流域防災事業(苧屋川)		担当課	河川整備課		事業 主体	徳島県				
実施箇所	阿南市那賀川町苧屋										
該当基準	再評価実施後一定期間(5年間)が経過している事業										
事業諸元	全体計画延長L=1,180m (築堤21,018m ³ 、掘削 37,590m ³ 、護岸2,258m、道路橋3橋等)										
事業期間	平成2年度～令和11年度(西暦1990年度～2029年度)										
総事業費(億円)	17.50億円				残事業費(億円)	7.8億円					
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景> 過去の浸水実績 ①被災頻度:S50(豪雨),H11(豪雨),H16(台風23),H26.8(台風12) ②最大浸水戸数:7戸(H11豪雨) ③最大浸水面積:71ha(S50豪雨) ・近年でも浸水被害(H16、H26)が頻発しており、特に平成16年台風23号では、甚大な浸水被害が発生している。 ・現況河道断面の疎通能力は極めて小さく、上流域では過去から浸水被害が多発している。 <達成すべき目標> ・河川整備計画目標規模(年超過確率1/30)の洪水を安全に流下させる。</p>										
	浸水軽減戸数:170戸 浸水軽減面積:114ha										
事業全体の投資 効率性	基準年度		令和5年度								
	B:総便益 (億円)	200.1	C:総費用(億円)	31.5	B/C	6.4	B-C	168.6	EIRR (%)	10.1	
残事業の投資効 率性	B:総便益 (億円)	83.4	C:総費用(億円)	7.1	B/C	11.7					
感度分析			残事業(B/C)		全体事業(B/C)						
	残事業費(+10%~-10%)		10.6	~	13.0	6.2	~	6.5			
	残工期(+10%~-10%)		11.5	~	11.9	6.3	~	6.4			
	資産(+10%~-10%)		12.9	~	10.5	7.0	~	5.7			
事業の効果等	・河川整備計画目標規模の洪水に対して、浸水家屋の115戸が解消され、氾濫面積約114haが軽減される。										
社会経済情勢等 の変化	地域開発の状況:流域内を横断する国道の沿道で宅地化・商業地化が進んでいる。 地域の協力体制:事業説明を行い、用地協力を求めていく。 地域の事業に対する社会的評価:国道55号までの改修が概成し、一定の効果が期待される。										
事業の進捗状況	・平成2年度より事業に着手し、令和4年度末で進捗率は55%(事業費ベース)である。										
事業の進捗の見 込み	・現在、事業は概ね順調に進んでおり、今後の進捗に大きな支障は無い。										
コスト削減や代 替案立案等の可 能性	各事業の設計段階では比較検討を行い、施工段階では掘削土等の有効活用をすることでコスト削減を図る。										
対応方針 (案)	継続										
対応方針理由 (案)	近年でもH26台風12号11号による浸水被害被害を受けており、これからも河川改修を行い、被害軽減に努める必要がある。										
その他											